

千円となりました。

■平成元年度一般会計予算

平成元年度は、税制改革に伴う減収が見込まれますが、所得の伸びや順調な内需景気を支えとして、三十三億七千二百万円の前年度実績を超過する見込みです。

■平成元年度国民健康保険特別会計予算

医療費の増加が予想されるため、対前年度比5・6%増の八億六千四百八十八万一千

円となりました。保険税の上昇を抑えるため、基金繰入金を六千万円見込んでいます。

■平成元年度老人保健特別会計予算

医療費が99%を占めるこの会計では、過去3か年の実績により、五億二千八百二十万二千円、前年度に比べ5・5%の増となりました。

元町長 伊藤績夫さん逝去

新町の基礎づくりに多大の貢献



町民は、伊藤さんのその実直で清廉潔白なところに絶大な信頼を寄せ、重要な時期の町政を三たび委ねる審判（当選）を下したのでした。

「初代町長の突然の辞任で急遽推されて町政を担当することになった30年代の初期は、戦後の退廃状態からようやく抜け出した程度の時代でしたので、すべてにこれからの状態で、合併に伴う膨大な行政需要に如何に対処すべきか誠意に重大な使命を背負っての船出であったと記憶していま

す。……」

かつて筆者との雑談の中で、就任当時の心境をこのように話しておられました。が、議会の積極的な協力もあって、養護老人ホームの建設を手始めに、役場庁舎や統合中学校、青年館、保育所などの施設を次々と完成させました。

また、町民の生活基盤となる町道や農道の整備についても、ダンプやトラックを購入し、地区民の協力によって改良を施し、今日の立派な舗装道路の基礎づくりを成して下

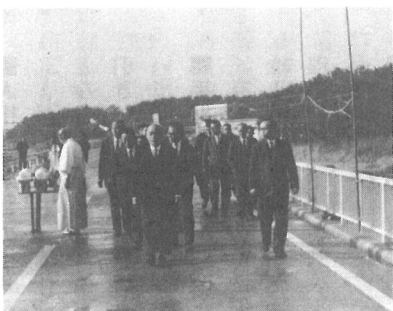
さいました。さらに、当時としては画期的な事業であった有線放送電話の開設については、まだ電話が十分に普及していなかった時代だけに、住民のくらしに計り知れないほど大きな効果をもたらしてくれました。その他、合併時から新町建設の重要な施策とされていた企業誘致や国道バイパスの整備などにも力を注がれ、今日の町隆盛の礎を築かれました。

こうした功績が認められ昭和42年には、勲五等瑞宝章が与えられました。勇退後も自宅で酪農に取り組む、海外視察などを楽しみに衰えを知らぬ気力と体力で余生を送っていると聞かされ

ていましたが、病には勝てず92歳の長寿をもって遂に帰らぬ人となりました。

伊藤さんの逝去を悼み、町民の皆様共々、ご冥福をお祈りしたいと思います。

なお葬儀は、3月18日自宅に於て、町内外から関係者多数参列のもと準町葬としてしめやかに執り行われました。



勇退の花道となった国道バイパスの渡り初め